

製品名: FXYD1/PLM ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe87244**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000, IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:10 kDa; Observed MW:10 kDa

抗原情報

遺伝子名	FXYD1/PLM
別名	PLM
遺伝子 ID	5348
SwissProt ID	O00168
免疫原	ヒト FXYD1/PLM の合成ペプチド

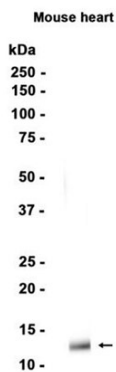
背景

この遺伝子は、PFXYD 配列で始まり、7つの不変アミノ酸と6つの高度に保存されたアミノ酸を含む、35アミノ酸のシグネチャ配列

ドメインを共有する小さな膜タンパク質ファミリーのメンバーをコードします。このファミリーの承認されたヒト遺伝子命名法は、FXYP ドメイン含有イオン輸送調節因子です。マウスの FXYP5 は、RIC (Related to Ion Channel) と呼ばれています。FXYP2 は Na、K-ATPase のガンマサブユニットとしても知られ、その酵素の特性を制御します。FXYP1 (ホスホレマン)、FXYP2 (ガンマ)、FXYP3 (MAT-8)、FXYP4 (CHIF)、および FXYP5 (RIC) は、実験的発現システムでチャネル活性を誘導することが示されています。2つのファミリーメンバー (FXYP1 および FXYP2) について膜貫通トポロジーが確立されており、N末端が細胞外にあり、C末端が膜の細胞質側にあります。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、プロテインキナーゼ A、プロテインキナーゼ C、NIMA キナーゼ、ミオトニックジストロフィーキナーゼなど、いくつかのキナーゼの細胞膜基質です。イオンチャネルを形成するか、イオンチャネルの活性を調節すると考えられています。5' UTR 配列が異なる転写バリエーションが文献で報告されています。[RefSeq 提供、2008年7月]

研究分野

画像データ



FXYP1/PLM ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用してマウス心臓組織抽出物のウェスタンブロット分析を行いました。